

平成25年度原子力災害影響調査等事業(放射線の健康影響に係る研究調査事業)

保健師による実際的な放射線防護文化の モデル開発・普及と検証

放射線防護専門家との協働によるアクションリサーチ

本日の発表の要点

1. 研究の概要
2. 研究の進捗状況
3. 今後の研究の方向性

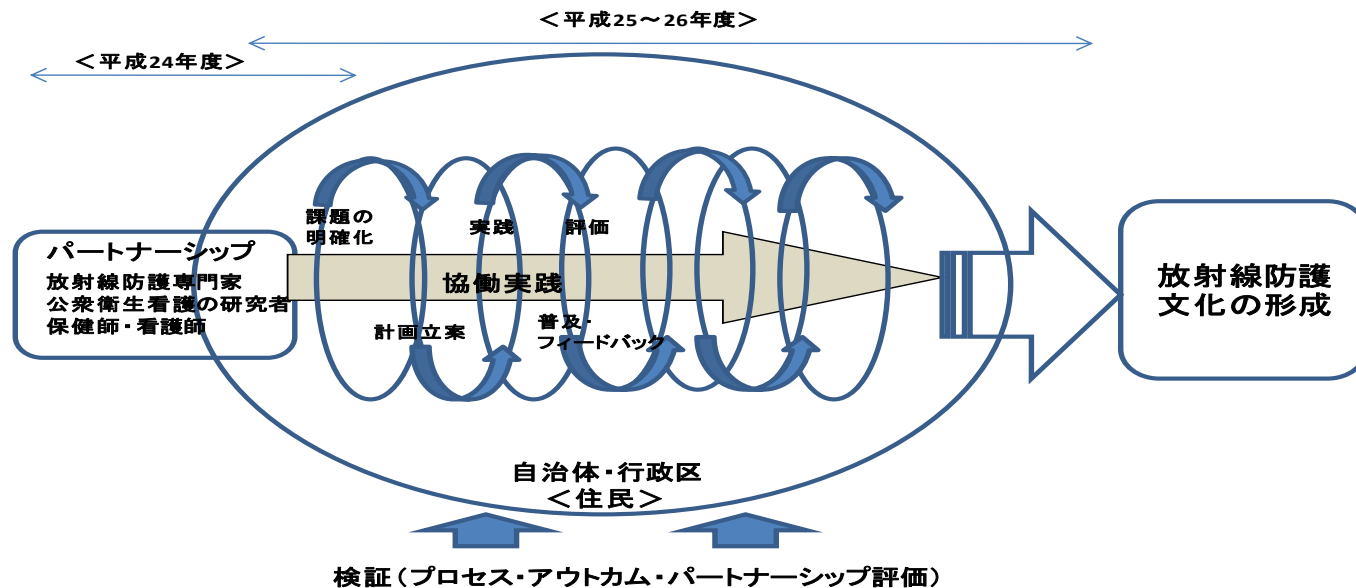
1. 研究の概要

研究目的

- ・原発災害の影響下にある住民の被曝に対する不安やストレスの軽減と質の高い生活のために、住民に实际的な「放射線防護文化」を形成する実践モデルを明らかにする。
- ⇒「放射線防護文化」: 住民が放射線は健康に関する環境の要因の一つであると捉え、他のリスク要因と同様に日常生活に放射線防護を取り入れ、トータルな健康増進をめざそうとする住民の価値観でありライフスタイル

研究方法

- ・アクションリサーチ: 現実の社会問題の实际的解決を目的として、問題の生じている現場において、当事者と研究者が協働して行う協働型実践研究



研究対象フィールド

人口: 327,723人(2013.12.1現在)
放射線量レベル(2013.12.15現在): 1時間あたり0.08 μ Sv

H24年度～25年度計画

H24年度事業内容

- ・協働体制づくり: 研究班会議等の実施
- ・住民生活と保健師活動の実態・ニーズ調査
- ・保健師に対する放射線教育の実施
- ・先進地域の取り組み視察

H24年度事業の結果からの示唆

- ・放射線防護文化形成のための具体的実践と方法論の明確化
- ・保健師実践への具体的支援と方法の明確化
- ・保健師・住民・研究者との協働の促進
- ・実践モデルの普及

推進・評価合同委員会からの指摘事項

- ・放射線防護文化形成のプログラムの明確化
- ・具体的な実際の活動の実施と検証
- ・効果的な実践モデルの抽出
- ・協働体制の充実・拡大

H25年度計画の焦点

1. 放射線防護文化形成のための具体的な実践
2. 効果的な実践モデルの明確化と検証
3. 協働体制の充実・拡大

2. 研究の進捗状況(H25年度)

研究会議の実施

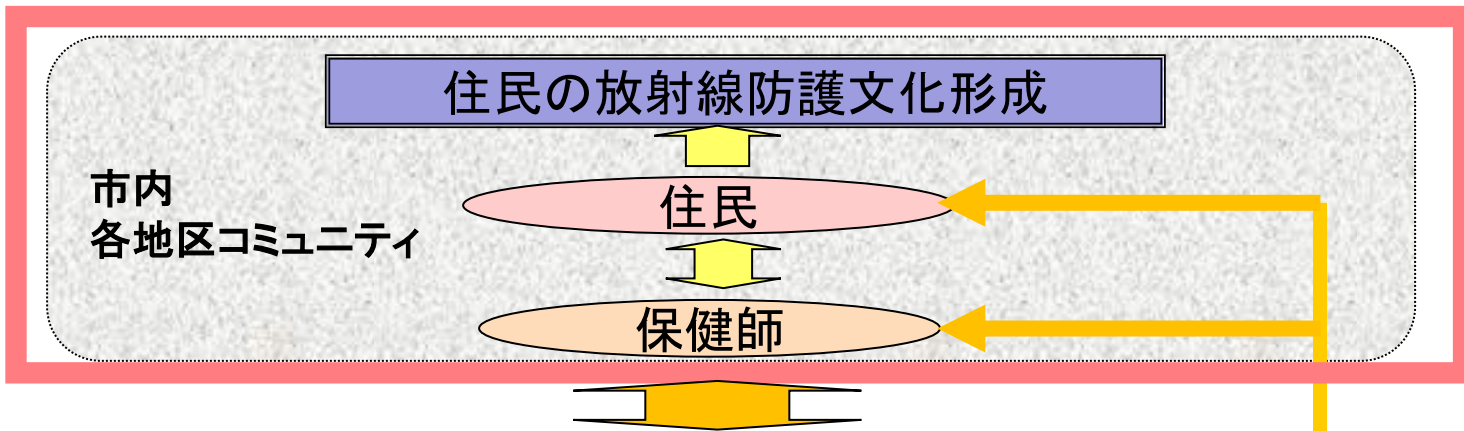
- ・研究班会議3回
- ・現地会議2回
 - 一市保健所、担当者との本年度計画の確認
 - 一市保健師との意見交換(住民生活の実態と保健師活動の現状と課題)
 - ・通常の保健師業務の上に、放射線に関する重要な保健事項がさらに加わっており、保健師はそれらに対応できるだけの人的・時間的余裕がない現状にある
 - ・放射線に関する知識提供に不安がある
 - ・既存の事業を協働して実施するとともにコンサルテーションを受けたい

など

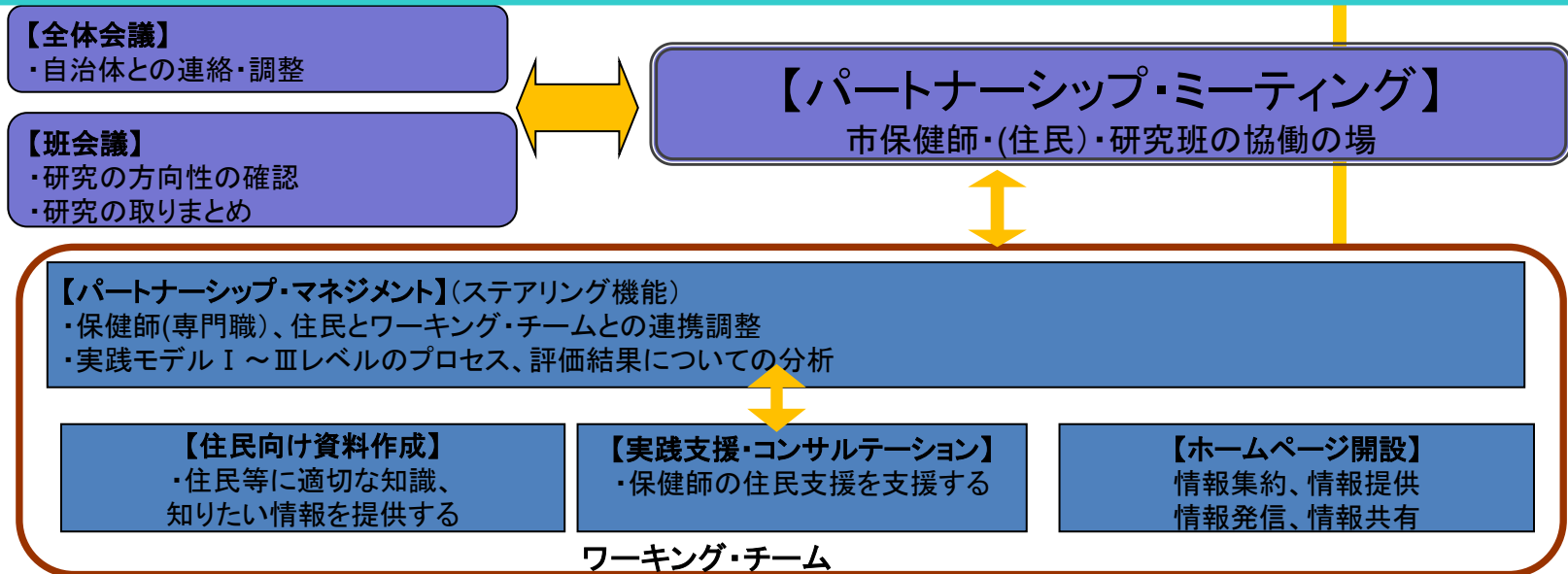
1. 放射線防護文化形成のための具体的な実践
2. 効果的な実践モデルの明確化と検証
3. 協働体制の充実・拡大

住民の放射線防護文化形成のための3つの実践モデル

実践モデル I



実践モデル II



実践モデル III

実践モデル I・II (放射線防護文化)の普及

福島県 近隣市町村 日本

実践モデルⅠ：放射線防護文化形成のための（保健師）実践

- ・既存の事業における協働実践
- ・新規事業の検討

実践モデルⅡ：放射線防護文化形成のためのパートナーシップ体制（保健師実践の支援）

- ・パートナーシップ・ミーティングの開催・連絡調整・運営・評価
- ・実践支援・コンサルテーション
- ・住民向け資料作成

実践モデルⅢ：福島県、近隣市町村、日本全体への普及啓発

- ・HPの開設
- ・福島県、近隣市町村、他研究との協働の発展
- ・全国の保健師等専門職への情報提供、関係団体への情報提供、関連学会・雑誌での公表
- ・国への提言

H25年度スケジュール

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
全体会議									
【役割・機能】 自治体との連携・調整			○ 8/8 第1回全体会議開催 協働できる保健師推薦 今後のスケジュール確認・共有 意見交換 他	○ 概ね2〜3か月に1回程度開催 ・今後のスケジュール確認・共有 ・意見交換					
研究班会議			○ 9/26 第2回研究班会議 ・ヒアリング日時、内容の検討(?) ・8/8 全体会議結果、ヒアリング結果を踏まえた今後の計画立案 ⇒ いわき市保健師へのフィードバック		○ 第3回研究班会議 ・評価結果、課題・問題、住民ニーズ等の変化についての分析を踏まえた今後の計画立案 ⇒ いわき市保健師へのフィードバック		○ 第4回研究班会議 ・プロセス・パートナーシップ評価、アウトカム評価の確認 ・住民の価値観、ライフスタイルの変化 ⇒ いわき市保健師へのフィードバック	◎ 報告書とりまとめ ⇒ いわき市保健師へのフィードバック	
パートナーシップ・ミーティング			○ 第1回パートナーシップ・ミーティング ・開始時保健師ヒアリング ・住民及び保健師の課題、ニーズ把握	○ 第2回パートナーシップ・ミーティング ・意見交換・情報提供、情報共有等 ⇒ 研究班メンバーへのフィードバック(共有)	○ 第3回パートナーシップ・ミーティング 同左	○ 第4回パートナーシップ・ミーティング 同左	○ 第5回パートナーシップ・ミーティング ・保健師ヒアリング ・(今年度終了時の課題、ニーズ把握)		
ワークシヤム(WO)	パートナーシップ・マネジメント							◎ 評価結果とりまとめ	
	【役割・機能】 ・保健師、住民との窓口 ・パートナーシップ・ミーティング運営 ・住民、保健師の課題、ニーズの調査分析 ・評価		・パートナーシップ・ミーティング(1回/月)運営 ・ヒアリング調査結果に基づき、住民・保健師の課題、ニーズの取りまとめ、共有	・パートナーシップ・ミーティング運営 ・各WTからの報告取りまとめ ・プロセス・パートナーシップ評価、アウトカム評価 ・課題・問題、住民ニーズ等の整理、変化の分析 ⇒ 研究班メンバー・いわき市保健師へのフィードバック ※必要に応じて、住民対象の集約発表を協働で開催	同左	同左	同左		
	保健師ヒアリング調査の検討								
	実践支援・コンサルテーション		・コンサルテーション体制について意見交換 ・コンサルテーション体制の確立 ・コンサルテーション日誌等評価ツール作成	・コンサルテーション開始(1回/月) ・コンサルテーション結果報告(1回/月) ・必要に応じて保健師等専門職の研修会を研究班が開催	同左	同左	同左	同左	
	【役割・機能】 保健師の住民支援を支援する								
住民向け資料作成		資料のコンテンツ検討、案作成	・いわき市保健師(開始時の保健師へのヒアリング)の意見反映 ・作成した資料(案)について、いわき市保健師に意見をもらう ・資料印刷、活用開始(9月中)	・資料の活用状況の把握・報告 ・必要資料について、いわき市保健師と検討 ・パートナーシップ・ミーティング、コンサルテーション等の結果、課題・問題・ニーズの変化等を反映し、新たに資料の作成、修正(リバイス)	同左	同左	同左	同左	
ホームページ開設		・ホームページ開設準備 ・ホームページ構築作成	・いわき市保健師(開始時の保健師へのヒアリング)の意見反映 ・ホームページ開設(9月中)	・ホームページ利用状況の把握・報告 ・システム管理等について、いわき市保健師と検討 ・パートナーシップ・ミーティング、コンサルテーション等の結果、課題・問題・ニーズの変化等を反映し、ホームページコンテンツを追加・修正(リバイス)					
福島県、近隣市町村等への普及・啓発 (学会発表等)		・日本災害看護学会(8/22-23)	・日本放射線看護学会(9/14-15)	・日本公衆衛生学会(10/23-25)			・日本公衆衛生看護学会(1/12-13)		
実践モデルⅠ～Ⅲの形成		実践モデルⅠ～Ⅲの各レベルで、実践・評価結果について継続的に記述。実践・評価を繰り返しながら、モデルを形成していく							

- 住民への既存事業(健康相談、健康教育、母子教室など)における、放射線防護文化形成のための実践方法・内容の試行と評価に基づく有効な実践モデルの明確化
- 住民ニーズに基づく放射線防護文化のための実践の検討
- 放射線専門家の住民対応を保健師の放射線教育の機会とする
- 保健師の放射線に関する実践に関するコンサルテーションの実施

既存事業における協働実践 日程・内容

日時 (場所)	事業内容
平成25年12月	精神保健事業 ミニ講話 「生活の中でできる放射線防護」
平成25年年12月	高齢者保健事業 ミニ講話 「放射線とのつきあい方」
平成26年1月	高齢者保健事業委 ミニ講話 「放射線とのつきあい方」
平成26年1月	母子保健事業 ミニ講話 (10分程度) 「健康と外あそび」
平成26年2月	母子保健事業 ミニ健康教育(15分程度) いわきの公園と外あそび
平成26年3月	母子保健事業 ミニ講話 「飲食物や外あそび関係」

実践モデル I・II の評価、効果的実践の抽出

研究者記録用紙

1. 事業に関する基本事項
2. 実践モデル I について
 - ・実施内容: 事業内容、参加者(住民)の相談内容・対応
 - ・プロセス評価: 実施方法の適切さ(方法、時間など)
 - ・結果評価: 目的の達成度、住民の反応
 - ・実施を通して把握した住民の放射線に関する健康課題、支援ニーズ
3. 実践モデル II について
 - ・保健師へのコンサルテーションの方法、内容
 - ・保健師への今後の支援・教育等のニーズ
 - ・保健師とのパートナーシップ形成(5段階評価)

保健師用調査用紙

1. 実践モデル I について
 - ・実施内容、方法について
 - ・実施を通して認識した住民の放射線に関する健康課題、支援ニーズ
2. 実践モデル II について
 - ・コンサルテーションの方法の適切性、不安・悩みは解消されたか、満足度など
 - ・保健師とのパートナーシップ形成(5段階評価)

住民用調査用紙

- ・実施内容に関する感想
- ・放射線に関して保健師に相談したこと
- ・放射線に関して保健師に情報提供してほしい内容・方法

研究者用記録用紙イメージ

パートナーシップ形成実践評価 (研究者用)

研究機関: _____ 実施地域: _____ 実施年度: _____

※この様式を変更していただいて構いません。作例の欄の記載は付かないようにお願いいたします。

1. 実施概要

参加者の概要

参加者数	_____
性別	_____
年齢	_____
別居者の割合	_____

2. 実践モデル I に関する記述

実施内容

実施概要について(実施内容、実施期間、実施地域)

実施概要から住民の健康課題・支援ニーズ

プロセス評価

実施概要と実施内容についての関係

結果評価

実施概要と実施内容から住民の健康課題・支援ニーズを把握し、実践モデル I を実施した結果、住民の健康課題・支援ニーズは

3. 実践モデル II に関する記述

実施内容

実施概要から住民の健康課題・支援ニーズ

実践結果

実施概要と実施内容から住民の健康課題・支援ニーズ

実施概要から住民の健康課題・支援ニーズ

パートナーシップ形成の実感について

※「1」で実施概要(1)～(4)で記述した内容を基に、調査は、実施概要欄に記入してください。

(1) 実施概要と住民の健康課題・支援ニーズ(調査結果)が一致しているかどうか(実施概要欄で記載されているかどうか)

(2) 実施概要と住民の健康課題・支援ニーズ(調査結果)が一致していない場合は、理由を記載してください。

(3) 実施概要と住民の健康課題・支援ニーズ(調査結果)が一致していない場合は、原因を記載してください。

(4) 実施概要と住民の健康課題・支援ニーズ(調査結果)が一致していない場合は、原因を記載してください。

(5) 実施概要と住民の健康課題・支援ニーズ(調査結果)が一致していない場合は、原因を記載してください。

※ 調査・実施概要欄に記入してください。

既存事業における協働実践から(2回実施から)

● 住民ニーズに基づく放射線防護文化のための実践の検討

- 住民の具体的な生活実態・ニーズが把握でき、アップデートな情報提供、相談ができる
- 対象者の特性により相談内容に特徴があるため、対象特性に応じた教育・相談の提供が必要である
- 地区特性に応じた相談内容があるため、地区ごとの事業で教育・実践する必要がある
- 放射線に特化した単独の教育・相談でなく、通常的生活習慣病、介護予防の事業に組み込むことで実施しやすい。また、参加者は仲間の相談を自身の生活としてとらえることができる。
- 一般の健康相談を組み合わせることで、自身の生活習慣の中で放射線の問題をとらえることができる

● 放射線専門家の住民対応を保健師の放射線教育の機会とする

- 放射線専門家の対応から、住民に伝える内容、伝え方を学ぶ機会となった

● 保健師の放射線に関する実践に関するコンサルテーションの実施

- 保健師がつらい気持ちを表出できる場になった
- 保健師は地区特徴に応じた個別の疑問や対応方法についての質問を出すことができ、知識を得ることができた



実践モデルⅡ

- パートナーシップ・ミーティング（保健師と研究班）の開催・評価
- 実践支援・コンサルテーション
- 住民向け資料作成
 - 作成目的: 復旧期の現在において、健康的な生活が放射線防護であるとのメッセージを伝え、子どもをもつ家族の不安が軽減し、子どもの健康な生活を促進する
 - 配布対象: 乳幼児から学童期にある子どもを育てる親、祖父母
 - 内容:
 - ・放射線防護文化の普及・啓発の意味(重要性)
 - ・具体的な生活の方法
 - ・食事の工夫(栄養バランス、食事内容、授乳など)
 - ・運動の促進
 - ・子どもの遊びと心身の健康
 - ・親の関わり
 - ・親のメンタルヘルス
 - ・これからの地域づくり

実践モデルⅢ

● ホームページの開設

- 作成目的: 保健師への情報提供、保健師間の情報交換の場とする
- タイトル: 「保健師の活動と放射線」
- 内容:
 - ・研究班の概要、研究班の活動、研究班活動で公表された記事等
 - ・保健師・養護教諭など専門職への相談に役立つ放射線に関する情報
 - ・Q&A リンク 他

● 福島県、近隣市町村、他研究との協働の発展

- 近隣市町村の保健師、他の市町村において活動する研究者との協働

● 全国の保健師等専門職への情報提供、関係団体への情報提供、関連学会・雑誌での公表

- 研究成果の学会等での報告(日本放射線看護学会、日本公衆衛生学会、Conference of International Center for Nursing Ethics, Global conference of Qualitative Health Research)
- 学会でのワークショップ: 日本公衆衛生看護学会「放射線防護文化の視点から保健師の放射線教育を考える」(予定)
- 平成25年度医療放射線管理講習会、平成25年度 医療放射線防護連絡協議会年次大会
- 論文・記事: 放射線安全管理総合情報誌FBNews、医学界新聞、保健師ジャーナル特集(予定)

● 国への提言

- 保健師の放射線および放射線防護教育体制整備と放射線専任保健師の配置に関する要望書の提出



3. 今後の研究の方向性

- 1. 放射線防護文化形成のための具体的な実践**
- 2. 実践内容に分析に基づく効果的な実践モデルの
明確化**
- 3. 協働体制の充実・拡大**